

県内9か所の農業改良普及センターからの現地情報をお届けいたします。

みやぎの

3月号

農業普及現場



普及活動標語

思いを形に、あなたのチャレンジを支えます。
応援します。農業普及

NEWS LETTER No.229 2026.3

紹介内容 (2/1~2/28)

1. みやぎの農業を担う次代の人材育成と革新技術の活用等による生産基盤の強化

① 先進的経営体等の育成及び経営の安定化・高度化支援・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

- 登米農改：登米地域農業経営セミナーを開催しました
- 大河原農改：地域計画の見直し検討会が開催されました
- 亘理農改：令和7年度第2回亘理地域農業普及活動検討会を開催しました
- 大河原農改：丸森町竹谷地区の法人設立準備を進めています
- 登米農改：令和7年度登米農業改良普及センター第2回普及活動検討会を開催しました
- 大河原農改：普及指導協力委員を講師とした法人経営管理指導会を開催しました
- 石巻農改：農業法人の経営力強化研修会を開催しました

② 新たな担い手の確保・育成・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3

- 石巻農改：石巻市認定農業者連絡協議会の通常総会が開催されました
- 亘理農改：新規就農者向け【経営レジリエンス向上セミナー】を開催しました
- 亘理農改：令和7年度宮城県農業・農村女性活躍表彰において、管内農家が最優秀賞を受賞しました
- 仙台農改：仙台4Hクラブが登米市の農業者を視察訪問しました
- 美里農改：農林産物品評会（うるち玄米）で美里町の長谷川さんが農林水産大臣賞を受賞
- 栗原農改：「農」の魅力を伝えるSNS活用セミナーを開催しました
- 大河原農改：令和7年度仙南地域農業担い手育成研修会を開催しました
- 大崎農改：大崎農業士会が未来につながる持続可能な農業の実現に向けた研修会を開催しました
- 登米農改：登米市農業士会地域農業振興懇談会が開催されました
- 大崎農改：未来塾で農閑期の取組を学びました
- 大河原農改：令和7年度大河原地域次世代農業研修会が開催されました！

③ 先端技術等の推進・普及による園芸産地の育成・強化・・・・・・・・・・・・・・・・ 7

- 大崎農改：色麻町にて乾田直播栽培成績検討会を開催しました

④ 園芸産地の育成・強化支援・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8

- 仙台農改：ねぎ若手生産者の情報交換会を開催しました
- 亘理農改：亘理名取りんごせん定講習会を開催しました
- 栗原農改：令和7年度栗原地域園芸振興セミナーを開催しました
- 石巻農改：「トマト抑制栽培におけるコナジラミ類の防除と発生状況に係る情報交換会」を開催しました

このニュースレターは、ホームページ(カラー版)でご覧になれます。<https://www.PRef.miyagi.jp/soshiki/nosin/gennba1.html>
このニュースレターに掲載している情報を一足早く紹介するブログもあります。<https://ameblo.jp/miyagifukyu/entrylist.html>

- 石 巻農改：石巻地域たまねぎ・ねぎ生産振興セミナーが開催されました
- 登 米農改：登米の冬を彩る、甘くておいしい「いちご」の出荷が最盛期を迎えています！
- 大 崎農改：JA古川なす部会で栽培講習会が開催されました
- 仙 台農改：JA仙台利府梨部会の病害虫防除基準説明会が開催されました
- 仙 台農改：生出野菜部会講習会が開催されました
- 大河原農改：川崎町キウイフルーツせん定講習会が開催されました
- 気仙沼農改：南三陸地域パイオ炭実演会を開催しました
- 亘 理農改：亘理町果樹振興会による研修会が開催されました
- 登 米農改：JAみやぎ登米にら部会栽培講習会・総合実績検討会が開催されました
- 気仙沼農改：にこにこベリー視察研修会が開催されました

⑤ 収益性の高い水田農業・畜産経営の展開支援・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 12

- 登 米農改：大豆難防除雑草対策研修会が開催されました
- 登 米農改：令和8年産の稲作へ向け迫町域肥料・農薬研修会が開催されました

⑥ 地域資源の活用等による地域農業の維持・発展・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 13

- 大 崎農改：やくらい土産センターさんちゃん会の今後の経営方針についての全体説明会が開催されました

2. 多彩な「なりわい」の創出や多様な人材・機関との連携による持続可能な農業・農村の構築

① 環境に配慮した持続可能な農業生産・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 13

- 亘 理農改：宮城県内初！果樹生産での「みどり認定」取得！

② 要請・緊急・その他・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 13

- 亘 理農改：亘理町農産加工推進協議会による「手作りみそづくり体験」が開催されました

1. 人材育成・生産基盤の強化

①先進的経営体等の育成及び経営の安定化・高度化支援

○登米地域農業経営セミナーを開催しました 令和8年2月4日 登米農業改良普及センター



令和8年1月21日に、登米合同庁舎で「登米地域農業経営セミナー」を開催し、農業者及び関係機関34名が参加しました。

本セミナーは、農業における多様な人材の確保や、将来を見据えた経営の進め方、地域の実情に応じた経営事例等について学ぶことで、円滑な法人経営につなげることを目的に、毎年開催しています。

今回は、すずき労務経営コンサルタントの鈴木大輔代表より「農業法人における経営継承のやり方について」、特定非営利活動法人みやぎセルフ協働受注センターの格井さえ子事務局長より「農福連携による労力確保の取組について」をそれぞれテーマとしてご講演いただきました。

集落営農組織の中には、役員の高齢化が進み経営継承が迫っている法人や、地域の働き手確保に苦勞している法人も多く、地域で抱える課題の解決に向け、非常に有意義な研修となりました。

当普及センターでは今後も引き続き、農業法人等の経営安定化を支援していきます。

○地域計画の見直し検討会が開催されました 令和8年2月6日 大河原農業改良普及センター



令和8年1月22日に村田町で「豊かな地域農業研修会」を開催し、村田町菅生地区の土地利用型農業担い手の菅生農業生産組合と個別経営体等13名および令和8年度から別地区から参入する新規就農者1名が参加しました。

はじめに、すずき労務経営コンサルタント代表の鈴木大輔氏をお招きし、経営継承で大切な「いつ（10年後の将来像イメージ）」、「誰に（身近なところの人材確保）」、「何を（承継したい資産や理念）」、「どのように（協働して実現）」バトンを繋ぐのかについてお話いただきました。その後、地域計画の見直しに向け現状等について話し合い、目標地図の確認や修正を行いました。さらに、普及センターからは、近年の高温対策として、家畜堆肥の上手な活用や水管理および適期刈取りなどの基本技術を確認しました。特に斑点米カメムシの防除を徹底することが収量や品質の向上に効果的であることを説明しました。参加者からは、水稻の高温耐性品種やカメムシ防除、事業継承における雇用と費用などの質問が出され有意義な研修会となりました。

○令和7年度第2回亙理地域農業普及活動検討会を開催しました 令和8年2月6日 亙理農業改良普及センター



令和8年2月3日（火）、当普及センターを会場に令和7年度第2回亙理地域農業普及活動検討会を開催しました。この検討会は、普及センターが取り組んでいる普及指導活動について外部有識者等から活動手法や内容などの評価と課題解決に向けた助言をいただくために、年2回開催しているものです。

今回は、今年度取り組んだ3つのプロジェクト課題と令和8年度普及指導計画（案）について説明しました。委員の皆様からは「（プロジェクト課題1）活動計画の着眼点が良い。夏季暑温対策は必要である。

経営指導も含めて指導をお願いしたい。」「(プロジェクト課題2) 法人設立後は、役員の高齢化を見据え、若手とのコミュニケーションや組織運営を支援願いたい。」「(プロジェクト課題3) 農業法人の世代交代の取組は、他法人のモデルとなるので、引き続き支援願いたい。」との御意見をいただきました。

普及センターでは、委員の皆様からの評価や御意見を次年度の普及活動に生かしてまいります。

○丸森町竹谷地区の法人設立準備を進めています

令和8年2月12日

大河原農業改良普及センター



令和8年1月29日に丸森町役場で、8回目の竹谷地区農業法人設立推進委員会が開催されました。丸森町竹谷地区では、農地整備事業を契機として法人を設立する予定で、8名の委員が令和6年6月から協議を継続しています。普及センターはこの委員会に支援メンバーとして参加し、他地区の事例や話し合いのポイントについて助言を行っています。

今回は、これまでの協議結果を基に目論見書や定款案の作成を行い、来年度の法人設立に向けた準備を進めました。

普及センターでは、今後も関係機関と連携して竹谷地区の地域営農体制の構築を支援していきます。

○令和7年度登米農業改良普及センター第2回普及活動検討会を開催しました

令和8年2月13日

登米農業改良普及センター



令和8年1月30日、登米合同庁舎会議室において、令和7年度第2回普及活動検討会を開催しました。本検討会は、今年度の普及活動の成果と令和8年度の普及計画について外部評価員にご意見をいただくことを目的としています。

評価員には先進的な農業者、女性農業者、マスコミ関係者、市役所、農業関係団体など外部の有識者7名を委嘱しています。

当日は、令和7年度に普及センターが取り組んだ「①加工用ばれいしょ生産中・長期計画策定と生産体制構築」、「②農地整備を契機とした地域営農構想の実現」、「③環境負荷低減型水稻乾田直播栽培技術の確立」についての成果報告と令和8年度の普及計画案、2つの新規プロジェクト課題案について、それぞれ説明をし、意見交換を行いました。

評価員からは、「是非、大型ばれいしょ団地を作りたい」や「設立した農業法人の育成も継続して欲しい」など前向きで建設的な意見を多数いただきました。

貴重なご意見を活かして、令和8年度の普及活動を充実させていきたいと思っております。

○普及指導協力委員を講師とした法人経営管理指導会を開催しました

令和8年2月18日

大河原農業改良普及センター



宮城県では、効率的、効果的な普及指導活動を展開するため、農業経営及び農村生活に関する分野において高い見識を有する専門家等を普及指導協力委員に委嘱し、普及センターと連携した地域農業の課題解決を進めています。

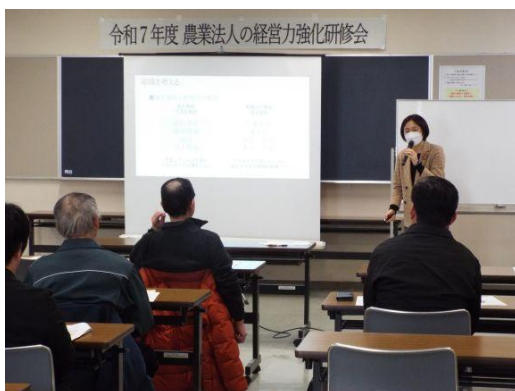
大河原農業改良普及センターでは、令和8年2月6日、村田町の担い手法人である農事組合法人Natureを対象に、普及指導協力委員の鈴木大輔氏(すずき労務経営コンサルタンツ代表)を講師とした法人経営管理指導会を開催しました。

最初に講師から、法人の決算書からこれまでの経営状況の振り返りについて、利益の段階ごとに分かりやすく説明が行われました。次に作物別変動損益計算書から、部門ごとの収益性や売上目標の設定などについて専門的な助言をいただきました。

法人では、設備投資や事業継承に向けた経営計画策定を進めており、熱心に質問を行いながらアドバイスを受け、将来の法人経営について話し合いを行いました。

普及センターでは今後も専門家と協力しながら担い手法人の経営発展に向けて支援していきます。

○農業法人の経営力強化研修会を開催しました 令和8年2月26日 石巻農業改良普及センター



令和8年2月10日に、農業法人の経営者を対象に「人材が定着し、育つ組織の体制づくり」をテーマとした、研修会を行いました。

講師の社会保険労務士松倉恵子先生からは、社員の成長のチャンスは会社を与えるもの、会社の目指す姿と社員の目指すことが同じ方向になるためにも、社員の思っていること考えていることを知る努力をするなどのお話がありました。

参加した経営者からは、グループワークなどを通して社員のことを意外と知らないことに気づいた、

コミュニケーションの大切さを学んだなどの感想がありました。

今年度の3回の研修が社内のコミュニケーションを深めるきっかけになり、社員の成長と定着につながることを期待しています。

②新たな担い手の確保・育成

○石巻市認定農業者連絡協議会の通常総会が開催されました 令和8年2月2日 石巻農業改良普及センター



令和8年1月29日に、石巻市認定農業者連絡協議会の通常総会が開催されました。

冒頭、三浦会長から、認定農業者は、10年後の農業を設計図となる地域計画の中心経営体として、さらに、新規就農者が手本にできる農業経営者として、地域農業に貢献できるよう活動していくとの挨拶がありました。

当普及センター所長からは、本県における新規就農者の現状について、認定農業者の皆さんに情報を提供しました。

○新規就農者向け【経営レジリエンス向上セミナー】を開催しました 令和8年2月2日 亘理農業改良普及センター



1月30日、亘理農業改良普及センターで第4回みやぎ農業未来塾【新規就農者のための経営レジリエンス向上セミナー】を開催しました。

第一部では、講師に本県指導農業士であり株式会社一莓一笑代表取締役の佐藤拓実氏を迎え、「先輩農業者が語る、被災と復旧の現実」をテーマに御講演いただきました。東日本大震災での甚大な被害を乗り越え、現在は2拠点化による地理的なリスク分散や、販路の多角化による販売リスク分散といったBCP（事業継続計画）の取り組みを通じた経営の維持・拡大についてお話いただきました。

第二部では、宮城県農業共済組合の担当者より、園芸施設共済や収入保険制度について解説いただきました。具体的な補償内容や共済金が支払われた事例を学ぶことで、保険の重要性を再確認し、リスク管理の実践的な知識を深める貴重な機会となりました。

参加者からは「佐藤氏の人とのつながりや人材育成を重視する取組がとても参考になった」、「収入保険の必要性が理解でき、ぜひ相談したい」といった前向きな声が多く寄せられました。

今後も普及センターは、地域の農業者が不測の事態に動じず、安心して持続的な経営を続けていけるよう支援してまいります。

○令和7年度宮城県農業・農村女性活躍表彰において、管内農家が最優秀賞を受賞しました
令和8年2月5日
亘理農業改良普及センター



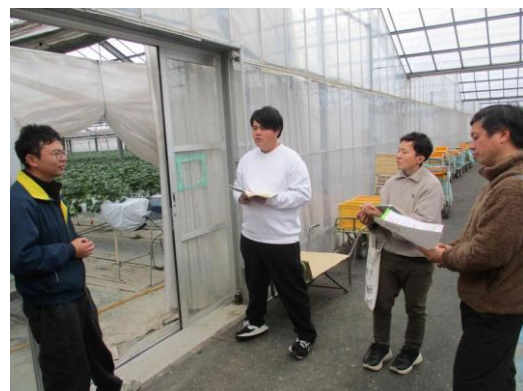
令和8年1月20日に「2025農山漁村パートナーシップ推進宮城県大会」が開催され、令和7年度宮城県農業・農村女性活躍表彰の「女性優良ビジネス部門」において、「有限会社やさい工房八巻」の八巻静氏（岩沼市）が最優秀賞を受賞しました。

八巻氏は、「有限会社やさい工房八巻」で専務取締役としてトマト生産と経理を統括し、経営の中核を

担っています。常に先見性のある経営判断を行い、大手スーパーとの直接契約締結による安定収益基盤の確立、独自パッケージによるブランド化を推進しています。また、若者や地域の女性を積極的に雇用し、高い定着率を実現するなど、多様な人材が活躍できる職場環境を整備しています。さらに、その活動は農業分野に留まらず、岩沼市包括支援センター運営委員として地域の福祉活動にも貢献しています。ライフワークバランスを実践した八巻氏の経営姿勢が、農業・農村における男女共同参画の先進モデルとして評価され今回の受賞となりました。

普及センターでは、引き続き女性農業者の活躍に向けて支援してまいります。

○仙台4Hクラブが登米市の農業者を視察訪問しました
令和8年2月12日
仙台農業改良普及センター



2月5日（木）に、仙台地区4Hクラブ連絡協議会（仙台4Hクラブ）の会員3名が、登米市の農業者3軒を視察訪問しました。

1か所目は、中田町浅水の古民家レストラン「艸と手と水」様を訪問しました。お店の店主は、以前まで

仙台4Hクラブの会員であったこともあり、皆さんで再会を喜びながら、お店の開店に至った経緯や、野菜を生産する上で取り組んでいる有機農業、循環型農業について研修しました。昼食では登米市産蒸し野菜のバイキングや手作りはっと汁を頂き、どれも絶品でした！

2カ所目は、米山町中津山でいちごを生産する株式会社フラット様を訪問しました。30年以上いちご栽培に取り組まれており（養液栽培を始めたのはなんと県内で2番目！）、直売では地域のリピーターをがっちりと呼んでいる熟練の栽培技術等について、研修しました。いちごを生産している4Hクラブの会員は、栽培に関して多く質問し、学んでいる様子でした。

最後に、米山町中津山で複合経営を行う株式会社たいら様を訪問しました。米、大豆、大麦を計60ha栽培しながら、輪作の中にねぎを取り入れ、更に35aハウスでいちごも生産する法人の体制に、4Hクラブの会員皆が驚嘆していました。また、米や野菜を生産している4Hクラブの会員は、ねぎの栽培技術について質問をしたり、法人代表の従業員育成の考え方に感心したりといった様子でした。

訪問させていただいた各農業者様において、栽培や経営に関する工夫、こだわりを学ぶことができ、仙台4Hクラブの会員にとって実りあるものとなりました。仙台農業改良普及センターでは、今後もクラブ活動を支援していきます。

○農林産物品評会(うるち玄米)で美里町の長谷川さんが農林水産大臣賞を受賞
令和8年2月16日
美里農業改良普及センター



令和8年2月9日(月)に古川農業試験場で行われた農林産物品評会(うるち玄米)表彰式で、美里町の長谷川光洋さんに農林水産大臣賞が授与されました。農林産物品評会は、農業者の生産意欲の高揚と技

術の向上を図ることを目的に毎年開催されています。10月に行われた本年度の品評会では151点の玄米が出品され、外観や成分分析結果等をもとに審査が行われ、長谷川さんのつや姫の玄米が最も優秀と認められました。

長谷川さんは令和7年1月に経営を引き継いで就農し、水稻の栽培と繁殖牛の育成に取り組んでいます。「まさか就農したばかりの自分が受賞するとは夢にも思いませんでした。春から始まる米づくりでは今まで以上に栽培管理に気を配り、より一層、美味しいお米を作れるよう努めていきたいと思います。」と喜びを語ってくれました。

○「農」の魅力を伝えるSNS活用セミナーを開催しました
令和8年2月16日
栗原農業改良普及センター



令和8年2月12日(木)に、宮城県栗原合同庁舎を会場として、就農5年以下の新規就農者(雇用就農者を含む。)及び女性農業者等を対象に、「農」の魅力を伝えるSNS活用セミナーを開催しました。

このセミナーは、農業・農村において、多様な人材が生き活きと活躍することを目的に開催したもので、新規就農者や女性農業者など5人が参加しました。

当日は、WEBサイト関連業務の専門家で、YAGUIのWEBディレクター 伊藤忍氏を講師に、スマートフォン等による魅力的な写真や動画の撮影方法、SNSへの投稿(紹介)方法などを学びました。講義中は、スマートフォンで実際に撮影方法を試したり、既存のWEBサイトで情報交換したりと、農業者間の交流の場、農業経営者としてのスキルアップの場となりました。

○令和7年度仙南地域農業担い手育成研修会を開催しました
令和8年2月18日

大河原農業改良普及センター



令和8年2月10日に大河原合同庁舎で「令和7年度仙南地域農業担い手育成研修会」を開催し、関係者も含めて28名が参加しました。

宮城大学食産業学群教授の川島滋和氏を講師に招き、『経営のエッセンス：マネジメント・マーケティング・財務管理から考える「これからの農業経営者」』と題しお話をいただきました。講演では、「経営と聞くとすぐお金の結び付けているが、お金の前に時間こそ大切」、「仕事の対価に付加価値を高めて、従業員・雇用者双方にとって益となるように、誰が行っても再現が確保できるビジネスモデルをつくるのが大切」、「将来ビジョンを描き、社員が目的を共有できる組織は強くなる」といった内容について身近な話題を例にお話いただきました。また、顧客の獲得戦略について「刺身（生物）と缶詰（加工）の需要曲線をもとにした宮城県産ギンザケのマーケティング戦略を例に分かりやすくお話いただきました。

参加者からは多くの質問が出され、経営の基本について有意義な学びの場となりました。

○大崎農業士会が未来につながる持続可能な農業の実現に向けた研修会を開催しました 令和8年2月24日 大崎農業改良普及センター



宮城県では技術と経営能力に優れた地域の指導的農業者の方々を指導農業士、青年農業士として認定し、普及センターとの連携のもと、次代の農業を担う若手農業者等の育成・指導や地域農業の振興に関する助言などの役割を担っていただいています。

管内の農業士で組織する大崎農業士会では毎年地域農業の発展をテーマとした研修会を開催しておりますが、令和8年2月12日に「未来につながる持続可能な農業の実現」に向けた研修会を開催しました。

未来につながる持続可能な農業の実現のためには、食料の安定供給をはじめ国土環境保全と多面的機能など重要な役割を担う農地を将来にわたり保守していく「農地保全」と食料の安定供給・農業の持続的発展及び地球環境の両立のための「環境負荷の低減」が重要な課題となります。

このため、今回は

- ①農地を次世代に引き継ぐための将来設計図である地域計画の実現
- ②農地継承における最大の弊害となる相続人不明農地の対策
- ③環境負荷を低減する持続可能な農業の支援策である「みどり認定」

の3つをテーマとし、それぞれの担当者から情報提供をいただきました。

当日は関係機関含め36人の参加があり、参加者から多くの質問や事業内容への要望があるなど、大変有意義な研修会となりました。

普及センターでは、農業士の方々と共に管内農業の発展のため、今後もこのような研修会を開催していきます。

○登米市農業士会地域農業振興懇談会が開催されました

令和8年2月24日
登米農業改良普及センター



令和8年2月10日(火)、登米合同庁舎において、登米市農業士会が主催する地域農業振興懇談会が開催されました。今年度のテーマを後継者や社員等の人材育成に設定し、ラシック合同会社の中山代表を講師に迎え、「農業現場における人材育成・協働的コミュニケーション」と題して講演をいただきました。講演では、若年層の特性に合わせた育成指導のポイントを参加者によるディスカッションを交えながらお話いただき、参加者は講師の話に共感しながら聞き入っていました。質疑では、自らの社員教育の体験談や悩みなどの質問もあり、参加者にとって有意義な懇談会になったようです。

○未来塾で農閑期の取組を学びました
令和8年2月24日
大崎農業改良普及センター



令和8年1月22日、青年農業者等を対象に「みやぎ農業未来塾 スキルアップ・経営確立講座」を開催し、8人が参加しました。今回は、農閑期の副収入源となり得る取組について現地研修を行い、午前は自然薯の掘り取り実演や加工場の見学、午後は害獣駆除を兼ねた狩猟の取組を視察しました。自然薯栽培の視察では、講師の生産者より、雪の下からきれいに掘り出された自然薯が高級食材として取引されていること、また、加工処理をすることで保存性が高まり、無駄なく出荷できることについて説明を受けました。午後は、県林業振興部の担当から狩猟制度の説明を受けた後、狩猟を行う認定農業者の講師から実際のお話をいただき、狩猟現場の緊張感から食べる楽しみまで理解を深めることができました。普及センターでは、今後も青年農業者や新規就農者の経営確立に向けた支援を継続していきます。

○令和7年度大河原地域次世代農業研修会が開催されました！
令和8年2月25日

大河原農業改良普及センター



令和8年2月12日に仙南農業士会、仙南4Hクラブとの共催で「大河原地域次世代農業研修会」を開催しました。研修会は「農業におけるSNSマーケティング」をテーマに行われ、25人の農業者が参加しました。講師の株式会社デジタルゴリラの千葉勇志取締役から、農業者がSNSで情報発信を行うメリットや消費者とコミュニケーションが生まれる投稿方法について講義いただきました。また、繁忙期にSNSを継続するために有効なAI活用について説明があり、参加者は熱心に聞き入っていました。SNSを通して販路を拡大したいと考える農業者から、より消費者に届く情報発信の具体的な方法等について活発に質問が出されました。また、講義後には、農業者の関心が高まっている「みどり認定」の概要や現状、申請方法等について情報提供を行いました。普及センターでは、今後も農業の新たな担い手の育成に向け引き続き支援していきます。

③先端技術等の推進・普及による経営効率

○色麻町にて乾田直播栽培成績検討会を開催しました
令和8年2月10日
大崎農業改良普及センター



水稻の省力化技術として注目されている乾田直播栽培は、色麻町や加美町でも導入が進んでいます。当普及センターがプロジェクト課題の対象としている農事組合法人下高城ふぁあむ(色麻町)においても、今年度から取組みを開始しました。乾田直播栽培の普及を目的として、色麻町、JA加美よつば、全農みやぎなどの関係機関と連携し、今年

度はこれまでに3回の現地検討会を実施してきました。令和8年1月20日に、これまでの取組成果を共有する場として成績検討会を開催しました。

検討会では、東北農業研究センターより乾田直播栽培管理のポイントについて説明があり、全農みやぎからは、県内各地の実証ほ場の成績が報告されました。また、当普及センターからは、(農)下高城ふあむにおける生育調査結果や、移植栽培との労働時間の比較結果について報告を行いました。

最後の意見交換では、乾田直播栽培に取り組む農業法人から実践事例が共有され、導入を検討する生産者からの質問も多く出されるなど、活発な議論が行われました。

出席者からは「自分の経営でも導入したい」といった前向きな声も聞かれ、乾田直播栽培の普及拡大が期待されます。

今後も普及センターでは、乾田直播栽培の普及に向けた技術支援を継続していきます。

④園芸産地の育成・強化支援

○ねぎ若手生産者の情報交換会を開催しました 令和8年2月3日 仙台農業改良普及センター



普及センターでは、令和6年度からプロジェクト課題として、黒川地区の若手ねぎ生産者を対象に、栽培技術の向上やネットワークづくりを支援しています。

令和8年1月22日に、今作のねぎ栽培について振り返りを行う第3回情報交換会を開催しました。

始めに、普及センターから気象経過や病害虫の発生状況について、JA新みやぎあさひな統括営農センターからは現時点までの販売経過や出荷状況の概要について、情報提供を行いました。

次に、各参加者から今作での良かった点や反省点、次作に向けた改善策について情報交換を行いました。夏場の高温や乾燥に苦慮したものの、土寄せや防除、除草等の栽培管理、作型の見直しや新品種導入などのほか、面積拡大や販売の話題まで幅広く活発な意見交換が行われ、次作への意欲が高まる有意義な会となりました。

普及センターでは、今後も地域農業の担い手育成と園芸産地の活性化に取り組んでまいります。

○亶理名取りんごせん定講習会を開催しました 令和8年2月4日 亶理農業改良普及センター



令和8年1月19日、亶理名取果樹振興協議会によるりんごせん定講習会が開催され、会員32人が参加しました。協議会は、名取市・岩沼市・亶理町・山元町の果樹生産者で構成され、主にりんご栽培に取り組んでいます。

講習会では、農業・園芸総合研究所の研究員が、りんごのマルバカイドウ台とわい性台の2樹を使ってせん定実技と解説が行われました。1月は収穫が落ち着き、せん定作業が本格化する時期であることから、参加者は枝の切り方や残し方について熱心に質問していました。

普及センターからは、気象経過、作況調査結果、青実果の発生軽減対策、今後の肥培管理について情報提供を行いました。今後も果樹生産者の活動を支援していきます。

○令和7年度栗原地域園芸振興セミナーを開催しました 令和8年2月4日 栗原農業改良普及センター



令和8年1月30日に宮城県栗原合同庁舎を会場に「令和7年度栗原地域園芸振興セミナー」を開催しました。本セミナーは、さらなる作付け拡大が期待される「さつまいも」と「加工用トマト」の2品目をテーマにしたものです。当日は、カネコ種苗株式会社およびカゴメ株式会社から講師を招き、基本的な栽培技術や各社の取り組みについて貴重な講演をいただきました。会場には、関係者を含め54名もの方々に足を運んでいただき、非常に活気のあるセミナーとなりました。参加者が熱心にメモを取る姿が印象的で、地域の園芸振興に対する関心の高さがうかがえました。

今回のセミナーが、栗原地域における新規栽培者の掘り起こしや、産地のさらなる活性化につながるよう、普及センターでは引き続き生産者を支援して

いきます。

○「トマト抑制栽培におけるコナジラミ類の防除と発生状況に係る情報交換会」を開催しました

令和8年2月5日

石巻農業改良普及センター



令和8年1月27日、石巻合同庁舎において「トマト抑制栽培におけるコナジラミ類の防除と発生状況に係る情報交換会」を開催し、当普及センタープロジェクト課題の対象者4名が参加しました。

当日は、普及センターから抑制栽培期間中におけるコナジラミ類の発生状況に加え、ハウス内への侵入防止対策として0.4mmネットを展張した場合の温度上昇が着果率に及ぼす影響などについて説明しました。続いて、各生産者からは、今年度抑制栽培でのコナジラミ類の発生実態や実践した防除対策が紹介され、成果などを共有しました。それらの情報を踏まえ、次年度に向けた防除対策について活発な意見交換が行われ、生産者にとって有意義な機会となりました。

○石巻地域たまねぎ・ねぎ生産振興セミナーが開催されました

令和8年2月10日

石巻農業改良普及センター



令和8年2月3日、石巻合同庁舎で東部地方振興事務所農業振興部主催による、「石巻地域たまねぎ・ねぎ生産振興セミナー」が開催されました。石巻普及センターもセミナーの企画から当日運営まで関わりました。

講師にはJA全農の耕種総合対策部の西畑主任技術主幹、農業・園芸総合研究所園芸環境部病害チームの格井技師をお招きし、それぞれ「直播たまねぎの生産技術」と「高温に対応した病害対策」について講演いただきました。当日は多数の生産者が参加し、講演

後の質疑応答も活発に行われるなど、今後のたまねぎ・ねぎの安定生産に向け有意義なセミナーとなりました。

○登米の冬を彩る、甘くておいしい「いちご」の出荷が最盛期を迎えています！

令和8年2月10日

登米農業改良普及センター



県北のいちご産地である登米管内（米山・南方・迫地区）では、11月の出荷開始以降、主力品種の「もういっこ」や「とちおとめ」を中心に収穫が順調に進んでいます。今季は、育苗期から定植後にかけて異例の高温が続くなど、非常に厳しい気象条件に直面しました。しかし、生産者の皆様による弛まぬ肥培管理と徹底した病虫害防除により、例年どおり品質が高く、甘みと酸味のバランスが良い果実が店頭に並んでいます。

こうした高品質な生産を支えるため、普及センターでは農業・園芸総合研究所と連携し、個別巡回や現地検討会を重ねてきました。特に、花芽分化に基づく適期定植の指導や、近年の課題である高温対策に重点を置いた技術支援を継続し、生産現場の課題に寄り添い、共に解決を図ることで、産地の安定供給を後押ししています。

登米の豊かな環境と生産者の努力が生んだ新鮮ないちごは、市内の農産物直売所をはじめ、県内のスーパーやイオン、「いたがき」などの店頭でもお買い求めいただけます。寒さが増すにつれ、ますますジュシーに、甘みが凝縮されていく登米市産のいちごを、ぜひこの機会にご堪能ください。

○JA 古川なす部会で栽培講習会が開催されました

令和8年2月10日

大崎農業改良普及センター



令和8年1月29日(木)、パレット大崎においてJA古川なす部会の令和8年産ハウスなす栽培講習会が開催されました。古川なすは、夏秋なすの産地として国から指定されており、ハウス栽培を中心に宮城県トップの生産量を誇ります。今回は、栽培技術や品質の向上に向け、20名以上の部会員の参加がありました。

まず、種苗メーカーから導入が拡大している品種「PC鶴丸」の栽培のポイントについて、次に、天敵資材メーカーから天敵の活用方法について、詳しい説明がありました。普及センターからは病害虫診断方法について説明しました。実際の栽培では、病害・害虫・生理障害が複合的に発生し、症状が似通うケースも多いため、現場での正確な判断が求められます。その手助けとなるサイトや、近年精度が高まってきているAIアプリなどを紹介し、使い方について説明しました。部会員は、実際にスマートフォンを操作して使い方を学んでいたほか、前作までの課題解決や新たな取組みに向けて活発に質問を交わし、熱心に受講していました。普及センターでは、今後も古川なすの生産支援を行っていきます。

○JA仙台利府梨部会の病害虫防除基準説明会が開催されました

令和8年2月16日

仙台農業改良普及センター



令和8年2月4日、6日の両日、JA仙台利府梨部会の防除暦説明会が利府町内4地区で開催され、42人が参加しました。

JA仙台利府梨部会では毎年防除暦検討会を12月に開催し、次年度の防除基準を生産者が主体とな

って作成しています。普及センターでは、病害虫の効果的な防除に向けて、助言を行っています。

当日の説明会では、普及センターから令和7年度に県内等で新たに発見された「サトクダマキモドキ」や、仙台市内の公園で発見された「チュウゴクアミガサハゴロモ」等の珍しい病害虫の情報提供や、昨年の気象経過の振り返りと、令和7年度の病害虫の発生状況を説明しました。また、令和8年度の病害虫防除基準については、変更点を中心に解説を行いました。

生産者からは、毎年夏の猛暑と降水量の少なさを実感しており、ダニ類やシンクイムシ類の対策に悩んでいる、といった発言が多くありました。令和8年度も気象に関しては、同様に暑い夏と少雨の傾向が予想されるため、JA仙台とともに継続して生産者を支援してまいります。

○生出野菜部会講習会が開催されました

令和8年2月18日

仙台農業改良普及センター



JA仙台 西部営農センター主催の生出野菜部会講習会が令和8年2月10日に開催され、部会員15名が参加しました。

当普及センター職員が講師となり、「畑の除草対策」をテーマに、除草剤の効果的な使用方法や除草剤に頼らない環境にやさしい防除方法、畑地で問題となっている代表的な雑草の種類について説明しました。講習後も多くの質問が出され、除草対策が野菜を生産する上で課題となっていることが伺えました。

普及センターでは、野菜等の園芸作物の安定生産に向けた講習会等の開催を支援してまいります。

○川崎町キウイフルーツせん定講習会が開催されました

令和8年2月19日

大河原農業改良普及センター



川崎町では、園芸振興策の一つとしてキウイフルーツ「みちのくレッド」の生産とブランド化に取り組んでいます。生産者は「キウイフルーツ振興会」を組織し、講習会や販売会等の活動を行っています。

令和8年2月12日には大河原農業改良普及センター職員を講師に、振興会会員の果樹園で「キウイフルーツせん定講習会」が開催されました。講習会は実践形式で行い樹齢が経過して枝が込み合っている樹のせん定方法について説明を行いました。参加者は、普及員が実践する様子を見ながら観察し、自園に活かせるように学んでいました。

普及センターでは、今後も継続して栽培技術指導を行ってまいります。

○南三陸地域バイオ炭実演会を開催しました 令和8年2月19日 気仙沼農業改良普及センター



南三陸町の南三陸大粒ぶどう協議会では、環境にやさしい栽培の実施を会の要領として定めており、農薬の使用削減や町内の未利用資源を有効活用した土づくり等を行っています。この取組をさらに強化するため、令和7年度は「グリーンな栽培体系加速化事業」を活用して、これまで焼却や野積み処分されていたぶどうのせん枝を炭（バイオ炭）にして土壤に施用する取組を実施しています。この取組は、せん定枝に含まれる炭素を炭にして長期間土壤中に貯留させることで、温室効果ガス排出量の削減のほか、土壤の保水性や透水性の改善などの効果が期待できます。

バイオ炭実演会を2月12日に協議会と普及センター主催で町内果樹園地を会場に開催し、協議会会員や関係機関等約20人が参加しました。

普及センターから、無煙炭化器を使った炭化方法や取組の効果について情報提供した後、ぶどうのせん定枝を材料に炭化実演を行いました。ぶどうのせん定枝の水分が多かったため、なかなか火力が強くなりませんが、約1時間半でバイオ炭を製造することができました。炭化実演終了後は、バイオ炭生成時の注意点等の確認を行いました。

普及センターでは、今後も南三陸大粒ぶどう協議会の活動を支援していきます。

○亶理町果樹振興会による研修会が開催されました 令和8年2月24日 亶理農業改良普及センター



令和8年2月10日、亶理町果樹振興会による研修会が亶理農業改良普及センター会議室で開催され、会員10人が参加しました。振興会の会員は主にりんご栽培に取り組んでおり、今回は害虫の発生状況と防除対策について学びました。

研修では、農業・園芸総合研究所の職員から、果樹カメムシ類、ハダニ類、シンクイムシ類、ハスモンヨトウについて、生態と防除方法の説明がありました。

近年の温暖化の影響で、亶理地域でも害虫の種類や発生量が増え、発生期間も長くなっています。そのため、効果的な防除対策を考える上で参考となりました。

普及センターからは、「令和8年度亶理名取りりんご病害虫防除暦」について説明し、年間の防除計画を共有しました。今後も関係機関と連携して果樹生産者の活動を支援していきます。

○JAみやぎ登米にら部会栽培講習会・総合実績検討会が開催されました 令和8年2月24日 登米農業改良普及センター



令和8年2月17日、にら栽培講習会・総合実績検討会が開催され、部会員11名が参加しました。

実績検討会では、普及センターより、令和7年の気温や降雨等の気象状況、病害虫（アザミウマやさび病）の説明や防除の方法、土壌分析の診断結果の見方や活用方法等について説明しました。また、種苗メーカーから、作型に応じた管理のポイント、適切な施肥や乾燥対策、推奨する資材について説明があり、最後に、今年度の販売実績について事務局から説明がありました。令和7年の悪天候により出荷数量は大きく減少しており、気候に合わせた早めの施肥・防除、地温抑制マルチの活用など、高温対策を徹底していく必要があります。

今後も、適切な栽培管理についての指導を継続して行い、にらの安定生産に向けて支援していきます。

○にこにこベリー視察研修会が開催されました
令和8年2月25日
気仙沼農業改良普及センター



令和8年1月20日、JA新みやぎ階上いちご部会主催による「にこにこベリー」視察研修会が開催され、いちご生産者4名が参加しました。

令和9年度をもって「とちおとめ」の基核苗配布が終了する予定であることから、その代替品種として期待される「にこにこベリー」について、栽培技術や品種特性に関する知識を深めることを目的に本研修会が開催されました。視察先については、普及センターが選定・調整を行いました。

当日は、石巻市の株式会社トライベリーファームを訪問し、高瀬代表取締役にご対応いただきました。ほ場を見学しながら、「にこにこベリー」の栽培特性や管理上の工夫、食味や市場での評価などについて参加者から積極的な質問が挙がり、活発な意見交換が行われました。その中で、「にこにこベリー」は他の品種と比べて多収であるとの話もあり、今後の栽培に生かせる多くの知見を得る機会となりました。

普及センターでは、引き続きいちごの安定生産に向けた支援を行ってまいります。

⑤収益性の高い水田農業・畜産経営の展開支援

○大豆難防除雑草対策研修会が開催されました
令和8年2月17日
登米農業改良普及センター



近年県内各地の大豆ほ場で、難防除雑草である帰化アサガオが発生し、問題となっています。

2月5日、農研機構東北農業研究センター、JA新みやぎ登米、JA新みやぎの主催により、JA新みやぎ登米本店において「大豆栽培における難防除雑草防除研修会」が開催されました。当日は生産者等約60名

が出席し、難防除雑草に対する関心の高さが伺えました。

農研機構の担当者からは帰化アサガオ防除のポイントとして、雑草が種子をつける前に防除することや、登米市の(農)TMファーマーズ代表からは、除草剤の体系処理試験の結果として、抑草効果が高く収量も対照ほ場を上回ったことなどが報告されました。

普及センターからは、登米市内の令和7年産大豆について紹介し、高温と少雨の中での大豆栽培から感じた次年度に向けた注意点を説明しました。

メーカー及び大崎農業改良普及センターからは、除草剤体系処理の流れと試験結果について、農研機構からは子実とうもろこしを導入した輪作体系についても紹介があり、内容の濃い研修会となりました。

普及センターでは、今後も市内の大豆生産について支援を行ってまいります。

○令和8年産の稲作へ向け迫町域肥料・農薬研修会が開催されました
令和8年2月18日
登米農業改良普及センター



令和8年2月12日に、令和8年産の稲作へ向け迫町域肥料・農薬研修会が開催され、迫稲作経営部会の会員を中心に約30人が参加しました。普及センターから令和7年産の稲作の総括と令和8年産の作付けのポイントを説明しました。特に近年の高温条件により紋枯病の発生が増加しているため、令和8年産で発生の見られたほ場は防除を実施するよう注意喚起を行ったほか、高温時の水管理として飽水(ほうすい)管理(水田の足跡に水がなくなる頃に田面が浸るくらいに水を入れる管理)が品質向上、また、用水不足が懸念される時の水管理としても有効であることを説明しました。

全農宮城県本部米穀部からは宮城県産米の販売情勢について情報提供いただきました。目まぐるしく変わる米穀情勢は、今後の経営判断に直結する重要なテーマであるため、参加した生産者も、現状の販売進捗や次年度の見通しについて、非常に高い関心を持って耳を傾けていました。

各肥料・農薬メーカーから肥料や除草剤について情報提供いただくとともに、令和7年産の課題を踏まえ、次年度の品質安定に資する資材選定のポイントが紹介されました。

普及センターでは、今後も登米管内の水稻の収量と品質の向上を目指した取組について支援を行ってまいります。

⑥地域資源の活用等による地域農業の維持・発展

- やくらい土産センターさんちゃん会の今後の経営方針についての全体説明会が開催されました
令和8年2月16日
大崎農業改良普及センター



加美町の葉菜山にある「やくらい土産センター・山の幸センター」は農事組合法人やくらい土産センターさんちゃん会（以下、さんちゃん会）が運営する農産物直売所で、平成6年のスタート以来、中山間地である当地域の活性化に寄与してきました。しかし、ここ数年、売り上げが減少傾向にあるため、普及センターと加美町では、経営改善に向けた様々な支援を行っています。

さんちゃん会では、今後の組織活性化策について、数年にわたり中小企業診断士などの専門家の指導のもと、役員を中心に検討を重ねてきました。その結果、現在の農事組合法人という法人形態では農業協同組合法により事業内容などの各種の制約があるため、株式会社への移行により経営内容の拡大を図ることとし、令和8年2月2日に一般組合員を対象とした全体説明会を開催しました。

説明会では、役員からこれまでの役員会による検討経過、株式会社へ移行後の将来的な事業構想の説明とすずき労務経営コンサルタツの鈴木大輔中小企業診断士を講師に「株式会社化の意義と今後の経営発展に向けて」と題した講演が行われました。

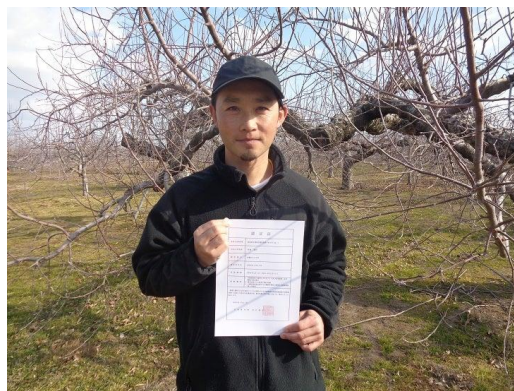
説明会終了後に今回の内容についての理解度と株式会社化への賛否を問う意向調査を行ったところ、出席者のうちの9割以上の組合員が内容を十分理解したうえで株式会社化賛成という結果となりました。

普及センターでは、今後も土産センターの活性化に向け、様々な支援を行っていきます。

2. 持続可能な農業・農村の構築

①環境に配慮した持続可能な農業生産

- 宮城県内初！果樹生産での「みどり認定」取得！
令和8年2月13日
亘理農業改良普及センター



亘理町の結城果樹園が、宮城県内で初となる果樹での「みどり認定」を取得しました。

「みどり認定」は農林漁業者が行う環境負荷を低減する取組を都道府県が認定する制度で、持続可能な食料システムの構築を目指し、農林水産省が定めたものです。

【認定された活動内容】

- 有機資材の施用による土づくりと化学肥料・化学農薬の使用減少
- 温室効果ガスの排出の量の削減
- 土壌炭素貯留に資する土壌改良資材の農地への施用

同果樹園の環境負荷低減の担当者である結城翔太さんは、取組のきっかけとして自身の「派米（農業研修）」での経験を挙げます。

研修先の米国ワシントン州で目の当たりにしたのは、地下水の過度な汲み上げによる農地の陥没や塩類集積、地下水質の汚濁などの環境問題でした。

帰国後に親元就農した翔太さんは、米国の現状を教訓とし、また近年の温暖化にも対応するため、環境に配慮した営農活動を心がけていると言います。普段の営農活動で温暖化が農業に大きな影響を及ぼしていると感じる中、自らの生産活動が「みどり認定」の「環境負荷低減事業活動」に合致していると考えたことから、今回の申請・認定取得につながりました。

今後も普及センターでは環境負荷低減事業活動に取り組む生産者の活動を支援してまいります。

②要請・緊急対策、その他

- 亘理町農産加工推進協議会による「手作りみそづくり体験」が開催されました
令和8年2月24日
亘理農業改良普及センター



令和8年2月6日、亶理町農村創作活動センターにおいて、亶理町農産加工推進協議会による吉田小学校4年生を対象とした恒例の「みそづくり体験」が開催されました。

児童一人ひとりが栽培した大豆「秘伝豆」と5年生が育てた米を使用したみそづくりは、今年で17年目を迎える取り組みです。

児童たちは茹でた大豆を圧搾機でミンチ状にし、こうじをよく混ぜ合わせ、感触を楽しみながらも、真剣な眼差しでみそ玉作りに取り組んでいました。完成したみそは熟成後、学校行事で利用される予定です。

自分たちの手で農産物を育て、加工する喜びを感じる、貴重な食育の機会となりました。

今後も普及センターは、地域農業の未来を担う次世代への食農教育を支援してまいります。

普及指導員が県内9か所の普及センターで、農業者を支援しています。

<大河原>
〒989-1243
大河原町字南 129-1
TEL:0224-53-3519

<亶理>
〒989-2301
亶理町逢隈中泉字本木9
TEL:0223-34-1141

<仙台>
〒981-0914
仙台市青葉区堤通雨宮町4-17
TEL:022-275-8320

<大崎>
〒989-6117
大崎市古川旭四丁目1-1
TEL:0229-91-0727

<美里>
〒987-0005
美里町北浦字笹館5
TEL:0229-32-3115

<栗原>
〒987-2251
栗原市築館藤木5-1
TEL:0228-22-9404

<登米>
〒987-0511
登米市迫町佐沼字西佐沼 150-5
TEL:0220-22-8603

<石巻>
〒986-0850
石巻市あゆみ野5-7
TEL:0225-95-7612

<気仙沼>
〒988-0181
気仙沼市赤岩杉ノ沢 47-6
TEL:0226-25-8068



*各農業改良普及センターには、「地域の食と農の相談窓口」を設置しております。食や農に関して知りたいことがありましたら、上記連絡先にお問い合わせください。

みやぎの農業普及現場 NEWS LETTER No.229

発行日:2026年3月26日

発行:宮城県農政部農業振興課

編集:宮城県農政部農業振興課普及支援班

TEL:022-211-2837 FAX:022-211-2839

E-mail : gbfs@PRef.miyagi.lg.jp